

第1回 高知県地震・津波防災技術検討委員会の確認事項

意見および要望		対応状況	備考
津波対策の考え方	地震発生に伴う津波と地盤に関すること(液状化及び地盤沈降)を、施設整備のうえでは十分考えていく必要がある	この意見を参考とし、 <u>海岸保全基本計画</u> の変更および各施設の構造検討、詳細設計を今後行う	—
	施設整備は、「比較的発生頻度の高い津波」を対象に整備していくことが妥当	<i>対応済み</i> 「比較的発生頻度の高い津波」を対象に <u>設計津波の水位</u> を設定	資料P.11
	「比較的発生頻度の高い津波」を越える津波に対して、粘り強く堤防が機能する構造を目指すこと	この意見を参考とし、各施設の構造検討、詳細設計を検討する	—
	地震動と津波の規模について分かりやすく定義付けをする必要がある	<i>対応済み</i> 津波については「 <u>比較的発生頻度の高い津波</u> 」と「 <u>最大クラスの津波</u> 」と二種類の津波に分類し定義付けを行い、海岸施設の耐震照査地震動には「比較的発生頻度の高い津波」である「 <u>設計津波</u> 」を発生させる地震を対象とし検討を行っている	—
津波高の設定	「津波高さ」について、標高「T.P(m)」表示として定義を明確にすること	<i>対応済み</i> 「津波高さ」について標高「T.P(m)」表示とし用語説明にて定義を明示	資料P.16
	津波シミュレーションについては、安政南海地震を再現した高知県モデルや中央防災会議の公表モデルなど、学術的に信頼性を有するモデルを使用すること	<i>対応済み</i> <u>2003年に中央防災会議(東南海・南海地震等に関する専門調査会)が公表したモデル</u> をシミュレーション値として採用した	資料P.9
	シミュレーションにおける地形データ等は、津波浸水想定に使用するモデルとも整合を図っていくこと	<i>対応済み</i> 高知県津波浸水想定で決定した地形データを使用した	資料P.9
	堤防等の天端高の設定は、設計津波の水位を前提として設定するが、周辺環境との調和や維持管理の容易性、施工性などの様々な要因を考慮する必要がある、設計津波の水位より低い天端高として計画する場合も考えられる	この意見を参考とし、地域住民や関係市町村と協議を行い各施設の構造検討、詳細設計を検討する	—